

# 特定非営利活動法人日本火山学会 2025 年度秋季大会プログラム

期間：2025 年 10 月 1 日（水）～ 10 月 3 日（金） 3 日間（学術講演会）

会場：キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）

後援：長野県・松本市・木曾町・王滝村・松本市教育委員会

## 【会場】

キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）

〒 390-0311 長野県松本市水汲 69-2

<https://www.matsubun.jp/>

## 【口頭発表スケジュール】

		A 会場（中ホール）	B 会場（国際会議室）
10 月 1 日 （水）	午前 （9:30～11:15）	形成史と時空分布	モニタリング
	午前 （11:30～13:00）	火山の地質学・岩石学（1）	リモートセンシング
	午後 （14:30～16:15）	火山の地質学・岩石学（2）	地下構造
10 月 2 日 （木）	午前 （9:30～11:15）	火山防災（1）	2025 年新燃岳噴火
	午前 （11:30～12:30）	臨時総会	
	午後 （14:00～16:15）	受賞記念講演	
10 月 3 日 （金）	午前 （9:30～11:15）	中部地方の火山	マグマの蓄積と移動
	午前 （11:30～13:00）	火山の地震	噴火のダイナミクス（1）
	午後 （14:30～16:15）	火山防災（2）・教育	噴火のダイナミクス（2）・噴出物の堆積と運搬

※一人あたりの講演時間は 15 分ですが、2 分は質疑応答時間として残すようにしてください。

※発表形式は現地発表もしくはオンライン発表になります。

## 【ポスター発表スケジュール】

- ・会場：キッセイ文化ホール 3 階 第 1 会議室・第 3 会議室
- ・発表形式は現地発表のみになります。
- ・ポスター掲示期間 奇数番号：10 月 1 日（水）10：00～19：00  
偶数番号：10 月 2 日（木）10：00～19：00
- ・コアタイム 奇数番号：10 月 1 日（水）16：30-18：00  
偶数番号：10 月 2 日（木）16：30-18：00

※1 日目と 2 日目は貼り替え制になります。

## 【交流会】

開催日時：10 月 2 日（木）開宴：18 時 30 分～ 20 時 30 分

- 会場：信州大学生協「あづみホール」  
〒390-0802 長野県松本市旭3-1-1 信州大学松本キャンパス
- 会費：社会人（シニア満70歳以上含む）：8,000円 当日申込：10,000円  
大学院生・学部生・無給研究員：4,000円 当日申込：6,000円

#### 【一般普及講演会】

- ・10月4日（土）10時～12時30分  
会場：キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）中ホール  
内容：「長野県の火山～研究・魅力・防災」

#### 【公開講座】

- ・10月4日（土）13時～16時  
開催場所：信州大学松本キャンパス 理学部C棟1F13番教室  
内容：親子で火山実験「長野の山には火山もあるぞ～長野の火山を知ろう！～」

#### 【現地討論会】

- ・「御嶽火山」  
開催日時：9月30日（火）  
案内者：及川輝樹（産総研）・堀川信一郎（名古屋大学）・山崎誠子（産総研）  
参加費：1万円程度の予定（バス・保険・ロープウェイ代など）  
内容：御岳ロープウェイの終点から八合目まで登山しながら、御嶽火山の完新世および2014年噴火の噴出物の産状の観察、2014年噴火の推移などの解説を行います。  
また、火山観測点や防災施設、噴火をきっかけにつくられた御嶽山ビジターセンター「やまテラス王滝」の見学なども行います。  
悪天時はビジターセンターの見学と山麓で噴出物の観察を行います。
- ・「焼岳火山」  
開催日時：9月30日（火）  
案内者：齋藤武士（信州大学）・石崎泰男（富山大学）・大見士朗（京都大学）  
参加費：1万円以下の予定（タクシー・保険代など）  
内容：焼岳山頂まで登山しながら、焼岳火山の噴出物と地形、地熱域と噴気の観察、火山観測設備の解説を行います。  
山頂まで登り約3時間、下り約2時間の本格的な登山です。悪天時は中止とします。

#### 【ジオツアー】

- ・浅間山北麓ジオパーク・ジオツアー  
開催日時：10月4日（土）9時～15時40分  
主催：浅間山ジオパーク推進協議会  
定員：25名  
参加費：2,000円（利用料、保険代等 税込）  
※昼食は各自ご持参ください（佐久平駅周辺にコンビニが2軒あります）。

#### 【ご案内および注意事項】

1. 会場の電力使用料は有料になっています。また複数の電源コンセントが同一の電気系統に繋がっており、多くの方が同時に利用されるとブレーカーが落ちる恐れがあります。そのため会場の電源コンセントの

使用はできません。但し、以下の(1)(2)に限り可とします。

- (1) 団体展示での利用。但し、団体展示の申込フォームから申告された消費電力の範囲内とします(申告以上の電力を使用されますとブレーカーが落ちる恐れがありますので必ず申告の範囲内に収めてください)。
- (2) 口頭発表で使用されるPCについてはご発表のコマの直前の休憩時間からご自身の発表終了までの間に限り、演台横の指定されたコンセントでのみ充電可とします(詳しい場所は追ってご案内します)。他の時間帯や指定されたコンセント以外での充電しないでください。

2. 会場内の飲食可否は以下の通りです。

玄関ホール	<u>団体展示エリアから十分離れた場所に限り可</u> 。団体展示には高額な製品が含まれます。汚損等は弁償いただく場合がありますのでご注意ください。
A会場入口前のホワイエ	
A会場(中ホール)	<u>客席の前半分(パイプ椅子のエリア)に限り可</u> 。お弁当・ペットボトルのドリンク等は可能ですが、蓋がない飲み物は不可。 <u>客席の後半分(固定座席)では飲食できません</u> 。
B会場(国際会議室)	お弁当・ペットボトルのドリンク等は可能ですが <u>蓋がない飲み物は不可</u> 。
小会議室(第4会議室)	
ポスター会場 (第1・第3会議室)	<u>ペットボトル等の飲み物に限り可</u> 。但しポスターボードにかからないように十分ご注意ください。ポスターボードの汚損等は弁償していただく場合がありますのでご注意ください。
団体展示会場・休憩スペース (第2会議室)	<u>飲食できません(休憩スペースを除く)</u> 。

3. 会場周辺の飲食店は限られております。会場から徒歩5分の距離にある信州大学松本キャンパス様の学生食堂(あづみホール)を12時10分以前および13時00分以降に限り使わせていただけることになりました。なお12時10分~13時00分は信州大学の昼休み時間にあたり混雑するため、この時間帯の秋季大会参加者(信州大学の学生・教職員を除く)の学生食堂の利用はご遠慮ください。特に2日目は秋季大会の休憩時間と一部重なりますので間違って12時10分~13時00分に学生食堂を利用されないよう十分ご注意ください。信州大学以外の大学生協の電子マネーは利用できません。

4. ポスターの掲示可能時間は

ポスター発表番号が奇数番号:10月1日10:00~19:00(コアタイム16:30-18:00)

ポスター発表番号が偶数番号:10月2日10:00~19:00(コアタイム16:30-18:00)

となります。奇数番号と偶数番号で同じポスターボードを使用しますので発表日の19時までにはポスターをはがしていただくようにお願いします。それ以降に残っているポスターは運営側で廃棄させていただきます。

5. 研究発表には未公表のものが含まれます。講演内容の記録(スクリーンショット、撮影、録音等)や講演内容の再発信(SNSやホームページ、ブログ等への掲載)はご遠慮ください。ただし、講演者本人から個別に許可を得た場合はこの限りではありません。マスメディアによる講演内容の報道についても同様の原則が適用されます。運営側で報道の一括許可は出せませんので、必ず講演者個人に確認を取り、許可を得た上で報道するようにお願いします。
6. 秋季大会の会場は一般の方々もご利用される場所です。そのため、所持品の管理は各自の責任にてお願いいたします。万が一、盗難などのトラブルが発生した場合でも、学会では対応いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

10月1日(水) 午前

A 会場

形成史と時空分布

座長：伊藤順一・小林哲夫

9:30-9:45

A1-01 古地磁気方位からみた伊豆大室山の噴火推移  
※馬場 章・山本裕二

9:45-10:00

A1-02 登山記録に基づく噴気活動の指標化 岩手火山周  
辺域における過去 150 年間の噴気活動変遷に関する  
事例研究 ※伊藤順一

10:00-10:15

A1-03 九重火山東部、過去 2 万年間のテフラ層序および  
マグマの多様性  
※◎福岡仁至・太田岳洋・辻 智大

10:15-10:30

A1-04 An overview of methods for dating andesitic lava flows  
安山岩溶岩流の年代測定法の概要  
※ Chris Conway・Pedro Doll・山崎誠子・石塚 治

10:30-10:45

A1-05 諏訪之瀬島火山、文化噴火(1813)と明治噴火  
(1884-1885)の地質学的再検討  
※小林哲夫・平吉孝明

10:45-11:00

A1-06 諏訪之瀬島火山、文化噴火(1813)以前の噴火に  
関する新たな文書記録 ※平吉孝明・小林哲夫

11:00-11:15

A1-07 草津白根山の長期噴煙活動推移：18 世紀以降に描  
かれた草津温泉の鳥瞰図に基づく検討  
※寺田暁彦・関戸明子

11:15-11:30 休憩

火山の地質学・岩石学(1)

座長：佐野貴司・奥野 充

11:30-11:45

A1-08 オントンジャワ海台のマグマ活動が地球環境へ与  
えた影響  
※佐野貴司・石塚 治・松本廣直・中西正男

11:45-12:00

A1-09 岡山県下の白亜紀火山活動—浅口市・岡山市・備  
前市・津山市に分布する白亜紀火山岩類を中心と  
して— ※毛利元紀・北野輝光

12:00-12:15

A1-10 北海道洞爺カルデラの長期的進化：古洞爺湖は存  
在したか？  
※後藤芳彦・鈴木涼太・Ralf Gertisser

B 会場

モニタリング

座長：横尾亮彦・宗包浩志

9:30-9:45

B1-01 バルク火山灰測色値による桜島火山の噴火推移過  
程の考察 ※嶋野岳人・山田大志

9:45-10:00

B1-02 箱根山の河川水 Cl/K 比と火山活動の関係  
※沼波 望・大場 武・谷口無我

10:00-10:15

B1-03 伊豆大島火山の全磁力変動に関する研究  
※笹岡雅宏・浅利晴紀・小田啓邦

10:15-10:30

B1-04 2021 年 6 月 18 日の阿蘇山中岳第一火口底の陥没  
現象 ※横尾亮彦

10:30-10:45

B1-05 霧島火山で発生する水蒸気噴火とその多様性の理  
解  
※田島靖久・及川 純・村松 弾・石橋純一郎

10:45-11:00

B1-06 海底地盤変動観測装置の測位データに含まれる季  
節変動成分抽出の試み  
※味喜大介・筒井智樹・井口正人

11:00-11:15

B1-07 プレート間すべりと火山性力源体積変化の同時推  
定 ※宗包浩志

11:15-11:30 休憩

リモートセンシング

座長：大林政行・後藤章夫

11:30-11:45

B1-08 自律型海域火山観測ロボットの開発  
※大林政行・高橋朋子・細田滋毅  
吉光淳子・杉岡裕子

11:45-12:00

B1-09 降灰厚計測デバイス実用化モデルの開発  
※羽田靖史・皆川 淳・金井啓通  
永田直己・島田 徹

12:00-12:15

B1-10 立入規制区域における浸透能の無人計測機構の初  
期検討 ※◎大嶋 陸・羽田靖史・白木克繁

12:15-12:30

A1-11 大山火山の最新噴火の推移と年代  
※奥野 充・石賀 敏・中岡礼奈・  
Andreas Auer・小林哲夫

12:30-12:45

A1-12 硫黄同位体分析に基づく阿蘇火山 2019～2020 年  
噴火の活動推移  
※◎平田 碧・大場 司・宮縁育夫・高橋亮平・  
Pearlyn Cabarubias Manalo・佐藤比奈子

12:45-13:00

A1-13 機械学習を用いた軽石組織の自動解析手法の開発  
弱教師ありセグメンテーションによる BSD 導出  
※◎木下 茜・下司信夫

12:15-12:30

B1-11 立入制限区域内の降灰厚情報の無人計測手法の開  
発と検証 新燃岳 2025 年 6 月噴火における実地  
計測検証 ※国際航業株式会社 (金井啓通)  
永谷圭司・羽田靖史・厚井高志

12:30-12:45

B1-12 2025 年 5 月桜島噴火の船舶レーダによる噴煙観測  
※西 隆昭・眞木雅之・中道治久  
海賀和彦・藤吉康志

12:45-13:00

B1-13 「即戦力となる火山人材育成プログラム」による  
恐山・宇曾利山湖調査  
山崎新太郎・※後藤章夫・知北和久・安藤卓人

10 月 1 日 (水) 午後

A 会場

火山の地質学・岩石学 (2)  
座長: 竹内晋吾・田村芳彦

14:30-14:45

A1-14 簡便な水置換法による多孔質な火山岩の密度測定  
※竹内晋吾・諏訪由起子

14:45-15:00

A1-15 福岡ノ場 2021 年噴火軽石中のダークエンクレ  
ープの成因  
※◎西岡和音・石橋秀巳・野々山花梨・  
吉田健太・外西奈津美・安田 敦

15:00-15:15

A1-16 鳴子カルデラ系の岩石学と時間スケール: 直方輝  
石と石英の鉱物ゾーニングからの知見  
※ Alexey Kotov・土屋範芳・奥村 聡・  
Manzshir Bayarbold・伴 雅雄・宇野正起・  
宮城磯治・清水 健二・牛久保孝行・吉村俊平

15:15-15:30

A1-17 ガスフラッシングによる桜島火山噴火サイクルの  
形成モデル  
※◎阿部遥斗・中村美千彦・新谷直己・  
無盡真弓・味喜大介・井口正人

15:30-15:45

A1-18 温泉水の化学組成から推定される雲仙地獄の地表  
条件下での水-岩石相互作用  
※◎坂本光瑠・宮本知治・池端 慶・  
石橋純一郎・松島 健

15:45-16:00

A1-19 西南日本弧大山火山の 4 つの端成分マグマ  
※柴田知之・宗近俊祐・岡田郁生・  
森下知晃・田村明弘・芳川雅子

B 会場

地下構造  
座長: 廣瀬 郁・高橋 良

14:30-14:45

B1-14 地震波速度と電気伝導度に基づく Geofluid Map-  
ping ※岩森 光・Geofluid Mapping Team

14:45-15:00

B1-15 始良カルデラおよび桜島下の 3 次元地震波速度構  
造と地震活動の関係  
※為栗 健・筒井智樹・味喜大介

15:00-15:15

B1-16 桜島 DAS データの地震波干渉法解析による地震  
波速度の時空間変化イメージング  
※廣瀬 郁・西村太志・中原 恒・田口貴美子  
下村陽一・滝沢寛之・中道治久・江本賢太郎  
米盛航平・Syed Idros Bin Abdul Rahman

15:15-15:30

B1-17 桜島 DAS 観測で得られた地盤増幅率の K-means  
クラスター分析: 地質構造との対応  
※◎米盛航平・江本賢太郎  
Syed Idros Bin Abdul Rahman・西村太志  
中原 恒・廣瀬 郁・田口貴美子・中道治久

15:30-15:45

B1-18 嬬婦海山における大規模地震探査  
※伊藤亜妃・新井隆太・田中 聡・吉光淳子  
中野 優・中島倫也・多田訓子・市原 寛  
黒田真奈加・吉田健太・中村恭之  
藤江 剛・小野重明

15:45-16:00

B1-19 草津白根火山広域及び山頂域における 3 次元密度  
構造解析  
※◎長池広樹・神田 径・成田翔平・  
牧野雅彦・小川康雄

16:00-16:15

A1-20 ボニナイトと父島の成り立ちを再考する  
※田村芳彦・Iona M. McIntosh・小平秀一・  
高橋成実・石塚 治

16:00-16:15

B1-20 火山体内部の熱水変質帯の特徴と熱水変質岩の浸透率 十勝岳, ヌッカクシ火口域の事例  
※高橋 良・竹内晋吾・藤原 寛・  
上澤真平・田中 良

10月2日(木) 午前

A 会場

火山防災 (1)

座長: 安田 敦・角皆 潤

9:30-9:45

A2-01 アンサンブル予測的手法を取り入れた噴火予測システムの開発について ※安田 敦

9:45-10:00

A2-02 桜島大規模噴火への対応のための火山防災研究構想 ※井口正人・倉元陽明・脇田浩任

10:00-10:15

A2-03 火山噴火と火山砂防技術の進展 ※藤沢康弘

10:15-10:30

A2-04 「広域降灰対策ガイドライン」と「火山灰警報・注意報」への懸念 ※小山真人

10:30-10:45

A2-05 東北日本の活火山に位置するスキー場における火山災害のリスク評価  
※◎田中菜々子・片岡香子

10:45-11:00

A2-06 第24回地震火山地質こどもサマースクール: 御嶽山はなぜ大きいのか?  
※山本淳一・新倉和毅・川上明宏・近藤裕吾・  
金 幸隆・竹下欣宏・道家涼介・土井恵治・  
柴田伊廣・佐藤明子・  
御嶽山火山マイスターネットワーク・  
第24回地震火山地質こどもサマースクール実行委員会

11:00-11:15

A2-07 「硫化水素は空気より重い」から地表付近に濃集する訳ではない  
※角皆 潤・水野裕也・宮木裕崇・  
西岡幸浩・中川書子

B 会場

2025年新燃岳噴火

座長: 池永有弥・風早竜之介

9:30-9:45

B2-01 霧島火山新燃岳 2025年6~8月噴火に伴う火山灰噴出量・構成物・化学組成  
※宮縁育夫・熊本圭純・飯塚義之

9:45-10:00

B2-02 降灰調査とドローン観測に基づく2025年霧島火山新燃岳噴火の推移  
※池永有弥・木尾竜也・成尾英仁・及川輝樹・  
古川竜太・風早竜之介・篠原宏志・  
岩橋くるみ・松本恵子・東宮昭彦・  
新谷直己・宝田晋治

10:00-10:15

B2-03 新燃岳 2025年噴火における火山灰構成粒子の特徴とその経時変化  
※木尾竜也・宮城磯治・及川輝樹・古川竜太・  
岩橋くるみ・池永有弥・松本恵子・  
成尾英仁・新谷直己・宝田晋治・  
草野有紀・東宮昭彦

10:15-10:30

B2-04 2025年6月22日に噴火開始した霧島新燃岳噴火、特に7月6日の噴火および火砕流の特徴  
※辻 智大・岡島千花

10:30-10:45

B2-05 2025年霧島・新燃岳噴火に即応した火山ガス同位体組成観測の結果  
※◎宮木裕崇・角皆 潤・中川書子・風早竜之介

10:45-11:00

B2-06 新燃岳でのドローンによる火山ガス観測  
※風早竜之介・森 俊哉・篠原宏志・  
小山崇夫・金子隆之・渡邊篤志

11:00-11:15

B2-07 衛星データと気象庁局地モデルによる二酸化硫黄濃度の時間減衰の確認と2025年新燃岳の活動  
※高木朗充・新堀敏基

臨時総会 (A 会場) 11:30-12:30

10月2日(木) 午後

A 会場  
受賞記念講演  
座長：青山 裕

14:00-14:20

S-01 火山における地球化学的観測研究—熱水系の理解, 火山活動評価, 国際貢献および人材育成—  
※大場 武

14:20-14:40

S-02 私の火山地質学 50年の研究 ※小林哲夫

14:40-15:00

S-03 富士山をはじめとした火山防災に関する国内外への教育普及啓発活動  
※吉本充宏・石峯康浩・藤井敏嗣

15:00-15:15 休憩

15:15-15:35

S-04 津波記録に基づく海底カルデラにおける変動現象解明 ※三反畑修

15:35-15:55

S-05 火山噴出物の化学分析に基づく噴火開始メカニズムの解明 ※新谷直己

15:55-16:15

S-06 二層重力流モデル構築による火砕流のダイナミクスと堆積物に関する理論的研究 ※志水宏行

10月3日(金) 午前

A 会場  
中部地方の火山  
座長：齋藤武士・片岡香子

9:30-9:45

A3-01 弥陀ヶ原火山の深部熱水溜り ※渡辺 了  
9:45-10:00

A3-02 焼岳火山の噴気活動とマグマ熱水系  
※齋藤武士・中山舜介・網田和宏・風早竜之介・宿輪隆太・三島壮智・大沢信二

10:00-10:15

A3-03 2025年3月に発生した焼岳の傾斜変動を伴う火山活動  
※田辺暖柊・片野陽登・吉村令慧・大見土朗

10:15-10:30

A3-04 御嶽山 2024-25年の活発化  
※石川 歩・小林 宰・工藤直樹

B 会場  
マグマの蓄積と移動  
座長：山田大志・宮城磯治

9:30-9:45

B3-01 超巨大噴火と花崗岩パソリスのマグマ供給率の比較 ※高橋正樹

9:45-10:00

B3-02 桜島火山 2025年5月と7月の噴火活動に伴う地盤変動  
※山田大志・石井杏佳・嶋野岳人・味喜大介・竹中悠亮・園田忠臣・為栗 健・中道治久・井口正人

10:00-10:15

B3-03 西之島火山のマグマ供給系：2020年噴火の火山灰からの制約  
※◎森 遥平・石橋秀巳・安田 敦・外西奈津美

10:30-10:45

A3-05 御嶽山の熱水循環システムにおける火山構造的な地震の役割

※寺川寿子・前田裕太・堀川信一郎

10:45-11:00

A3-06 精密水準測量によって検出された御嶽山の上下変動 (2016 - 2025)

※村瀬雅之・前田裕太・堀川信一郎・浅井 岬・竹脇 聡・小池遥之・金 幸隆・松島 健・内田和也・山口雅弘・馬場朱莉・大川航平・吉川 慎・井上寛之・石井杏佳・及川 純・手操佳子・栗原佑典・谷田部史堯

11:00-11:15

A3-07 御嶽山 2014 年噴火で発生したラハールと河川での過剰浮遊土砂輸送：火口からの泥水噴出の記述に関するいくつかの問題点

※片岡香子

11:15-11:30 休憩

#### 火山の地震

座長：三反畑修・及川元己

11:30-11:45

A3-08 海底カルデラでの繰り返しトラップド型断層地震の類似性：広周波数帯域にわたる津波・地震波記録の比較から

※三反畑修・武村俊介

11:45-12:00

A3-09 通信ケーブルを用いたトンガにおける DAS 火山観測の実施 (速報)

※◎中尾俊介・市原美恵・中野 優・Taaniela Kula・Rennie Vaiomounga・Tonga Geological Services Staffs・Rebecca Carey・大湊隆雄・篠原雅尚

12:00-12:15

A3-10 2022 ~ 2023 年のクリュチェフスコイ火山群・シヴェルチ火山の地震背景レベル

※Galina Nataliya・市原美恵・西田 究・金子隆之・Dmitry Droznin・Sergey Senyukov・Danila Chebrov

12:15-12:30

A3-11 DAS に記録された 2025 年 5 月桜島の噴火微動・調和型微動・爆発地震の解析

※西村太志・廣瀬 郁・田口貴美子・中原 恒・中道治久・江本賢太郎・米盛航平・Rahman Syed Idros Bin Abdul・Syed Idros Bin Abdul Rahman

12:30-12:45

A3-12 2004 年浅間山噴火のマグマ湧出期における長周期地震活動

※武尾 実

12:45-13:00

A3-13 岩手山の深部低周波地震活動と震源メカニズム

※及川元己

10:15-10:30

B3-04 九州中部の九重火山と阿蘇火山の珪長質マグマ噴火で見られる産状の異なる苦鉄質マグマ噴出への岩石学的考察

※菊池暁平・藤本和希・金子克哉・石橋純一郎

10:30-10:45

B3-05 6.4ka 池田カルデラ噴火に関する岩石学的検討

※◎佐藤月彦・安田 敦・石橋秀巳・西原 歩

10:45-11:00

B3-06 クリスタルマッシュのメルト抽出過程：富士山・伊豆大島の深成岩捕獲岩からの制約

※◎西ヶ谷琴音・石橋秀巳・大塚芽久・吉田那緒・針金由美子・外西奈津美・安田 敦・千葉達郎

11:00-11:15

B3-07 火道内マグマ対流脱ガスを利用した巨大噴火抑止方法

※宮城磯治

11:15-11:30 休憩

#### 噴火のダイナミクス (1)

座長：及川 純・鈴木雄治郎

11:30-11:45

B3-08 傾斜変動から推定した新燃岳で 2018 年に発生したブルカノ式噴火における火山灰放出源の深度と噴火発生場の考察

※及川 純・前田裕太・田島靖久

11:45-12:00

B3-09 福徳岡ノ場 2021 年噴火噴出物の岩石組織に基づくマグマ上昇・噴出過程の検討

※水野 樹・前野 深・谷健一郎

12:00-12:15

B3-10 Transitions of Eruptive Activity at Sinabung Volcano (2015–2018) Based on Volume Estimated from Co-eruptive Seismicity

噴火地震動から推定される噴出体積に基づくシナブン火山噴火活動の推移 (2015-2018 年)

※ Vico Luthfi Ipmawan・井口正人・大倉敬宏・為栗 健・山田太志

12:15-12:30

B3-11 発泡によるマグマ中の多成分揮発性成分の濃度変化

※◎朝田 葵・金子克哉

12:30-12:45

B3-12 ストロンボリ式噴火の室内実験と火道内圧力変動のモデル化

※◎谷澤歩武・西村太志

12:45-13:00

B3-13 高湿度大気中の火山噴煙における乱流と固体粒子挙動

※市原美恵・Florescia Zapata・Pablo D. Mininni・S. Ravichandran・Corrado Cimarelli

10月3日(金) 午後

A 会場

火山防災 (2)・教育

座長：池田暁彦・宮城洋介

14:30-14:45

A3-14 降灰後の土石流の発生特性と火山灰の影響  
※池田暁彦

14:45-15:00

A3-15 融雪型火山泥流の数値計算手法の提案  
※酒井佑一・志水宏行・堀田紀文

15:00-15:15

A3-16 小型宇宙線ミュオン検出器を用いた葦崎岩屑なだ  
れでのミュオンフラックスの計測  
※後藤 聡・小幡隼士・後藤瑞季・  
木本瞳子・後藤 禎

15:15-15:30

A3-17 幼稚園児に噴火予知や火山噴火のメカニズムを理  
解させるためのストーリー作り ※林信太郎

15:30-15:45

A3-18 三松三朗さんが火山関係者に果たした役割  
※佐藤 公・杉本伸一・池辺伸一郎・  
田鍋敏也・横山 光・所澤新一郎

15:45-16:00

A3-19 三宅島山頂カルデラツアーの現状と課題  
※青谷知己・磯谷泰斗・鎌倉ひとみ

16:00-16:15

A3-20 御嶽山登山道に設置された放送設備による音声到  
達範囲調査 ※宮城洋介・庄司秀明・長房 駿

B 会場

噴火のダイナミクス (2)・噴出物の堆積と運搬

座長：小園誠史・宝田晋治

14:30-14:45

B3-14 粘塑性重力流モデルによる新燃岳溶岩ドーム成長  
過程の解析 ※丸石崇史・小園誠史・志水宏行

14:45-15:00

B3-15 高濃度粒子重力流モデルに基づく火砕流ハザード  
評価—霧島山新燃岳における検討—  
※小園誠史・丸石崇史・志水宏行

15:00-15:15

B3-16 低温火砕流の発生条件  
※鈴木雄治郎

15:15-15:30

B3-17 伊豆大島と阿蘇火山におけるテフラハザード評  
価：自動描画テフラ分布図の応用  
※中田節也・永田直己・上澤真平・宮縁育夫

15:30-15:45

B3-18 任意時刻の降灰量を算定可能な降灰シミュレー  
ション WT の改良  
※仲谷知之・花原英徳・鴨志田毅・羽田野英吾

15:45-16:00

B3-19 WebTephraCalc オンライン降下テフラ噴出量推  
定システムの開発  
※宝田晋治・Joel Bandibas・河野裕希・  
荻谷恵美・長田美里

16:00-16:15

B3-20 福島県吾妻山東麓の完新世ラハール堆積物の層序  
と分布：福島盆地への影響の評価  
※長橋良隆・片岡香子・鈴木健太

ポスターセッション

コアタイム：10月1日(水) 16:30-18:00 (奇数番号)

10月2日(木) 16:30-18:00 (偶数番号)

P01 北海道中央部、富良野—旭川地域に分布する大規  
模火砕流堆積物の岩石学的対比  
※◎亀村祐斗・佐藤鋭一・中川光弘・松本亜希子  
P02 トムラウシ火山の最新の溶岩の熱ルミネッセンス  
年代 ※藤原 寛・石崎泰男・長谷部徳子  
P03 十勝岳における登山者避難行動調査「十勝岳チャ  
レンジ 2025」実施報告  
※富島千晴・宮城洋介・田中義郎

P04 十勝岳 1926 年ラハールの流動特性に基づく総流  
量の推定  
※◎飯田航世・常松佳恵・片岡香子・  
富島千晴・佐藤鋭一  
P05 火山観測用可搬型レーザー干渉計 (SCOPE) によ  
る振子沢噴気孔群周辺の地盤変動 (2022-2025)  
※小澤 拓・宮城洋介・奥山 哲・姫松裕志  
P06 十勝岳の火山ガス・温泉水の硫黄同位体比  
※関 香織・丸岡照幸・高橋 良

- P07 軽石の気泡構造と堆積位置との関係—恵庭岳・有珠山軽石を対象とした観察手法の確立—  
※◎澤田 笙・Christopher Gomez・厚井高志
- P08 有珠外輪山における土石流の発生検知とその発生形態  
※厚井高志・永田直己
- P09 有珠山山頂地域における土壌拡散 CO<sub>2</sub> フラックスの繰り返し観測  
※◎泉那由多・青山 裕・田中 良・鈴木敦生・森 俊哉
- P10 北海道有珠昭和新山における極微小地震活動と地温変化の関係の検討  
※◎川池陸人・石瀬素子・竹尾明子・西田 究・青山 裕・青木陽介
- P11 磁鉄鉱と石基組織の解析からみた有珠火山 1977 年噴火のマグマ過程  
※東宮昭彦・堀田修平・奥村 聡・松本一久・宮本 毅・新井田清信
- P12 2024 年 9 月に採取した岩手山大地獄谷の噴気  
※谷口無我・大場 武・菅野 瞬
- P13 岩手火山群, 火山性流体の上昇・側方流動の通路としての地溝帯  
※土井宣夫
- P14 GNSS・SAR による 2015 年以降の八幡平・岩手山における地殻変動の時空間変化  
※姫松裕志・宗包浩志
- P15 鳥海火山、東鳥海馬蹄形カルデラ内の噴火活動史: 古地磁気学的推定  
※◎村山 新・大場 司・長谷川健
- P16 鳥弧火山におけるマグマタイプの多様性とその時間変化: 東北日本、秋田駒ヶ岳の地質学的・岩石学的研究  
※田次将太・中川光弘・松本亜希子・栗谷 豪
- P17 蔵王火山歴史時代活動における斜長石滞留時間の時間変化  
※佐藤初洋・伴 雅雄
- P18 蔵王火山、1894 ~ 97 年噴出物中の特異なガラス質様火山弾について  
※伴 雅雄・松岡睦実・井村 匠・常松佳恵・佐藤初洋・松本亜希子・中川光弘
- P19 蔵王火山最新期溶岩類の斑晶組織・組成とマグマプロセス  
※◎大木可夏子・伴 雅雄
- P20 蔵王火山東麓・遠刈田地域におけるラハール堆積物の分布範囲  
※藤原弘人・伴 雅雄・加々島慎一・井村 匠・宮本 毅・常松佳恵・片岡香子
- P21 Drone-based Diffuse CO<sub>2</sub> Flux Measurements at Yugama Crater Lake, Kusatsu-Shirane Volcano ドローンを用いた草津白根山湯釜火口湖の湖面 CO<sub>2</sub> 放出率測定  
※◎栗原ソフィー・寺田暁彦・笹 和樹
- P22 ALOS-2 干渉 SAR 解析による草津白根山の地盤変動場  
※成田翔平・神田 径・寺田暁彦
- P23 K-Ar 年代から見た草津白根火山の活動史  
※◎瀬戸口海翔・石崎泰男・青木大和・角野浩史
- P24 Recoverability of near-to-source VLP waveforms using far-from-source stations at Asama Volcano: implications of source variation and database refinement  
※◎Victoria Hipatia Olivera Craig・市原美恵・行竹洋平・武尾 実・大湊隆雄
- P25 樹型・炭化木からみた浅間前掛火山の中間型火砕流の性質—吾妻火砕流と追分火砕流の比較—  
※安井真也・高橋正樹
- P26 北八ヶ岳, 横岳火山 Yt-Pm4 の輝石の化学組成  
※佐藤大悟・齋藤武士
- P27 飛騨山脈は隆起しているか? ※鷺谷 威
- P28 野麦峠岩体 (野麦峠火山岩類) の構成と層序の再検討  
※鈴木秀雄
- P29 2016 ~ 2020 年立山火山地獄谷における地盤変動源の再検討 門倉 涼・※堀田耕平
- P30 焼岳火山群, アカンダナ火山溶岩の古地磁気年代  
※◎野谷 柊・齋藤武士
- P31 焼岳浅部の比抵抗および磁化構造  
※吉村令慧・宇津木充・橋本武志・山崎健一
- P32 ドローンによる焼岳の熱赤外観測  
※◎中山舜介・齋藤武士・宿輪隆太
- P33 噴火前傾斜変動の比較研究のための波形逆解析手法の改良と御嶽山でのテスト ※前田裕太
- P34 地震雑微動トモグラフィによる御嶽山の三次元 S 波速度構造推定  
※◎浅井 岬・前田裕太・渡辺俊樹
- P35 御嶽山「巖立溶岩」のエンタブラーチャー ※後藤芳彦
- P36 愛知県の大学生を対象とした御嶽山の火山防災に関する意識のアンケート調査  
※堀井雅恵・金 幸隆・山岡耕春・國友孝洋・工藤 健
- P37 溶岩堤防の形状に基づく富士山の溶岩流における降伏応力の推定  
※秋葉祐里・石峯康浩・吉本充宏
- P38 テフラからみた白山火山の完新世の噴火履歴  
※◎高山 顕・石崎泰男
- P39 富士山の最新期山頂噴火の再検討  
※龜谷伸子・吉本充宏・渡部将太・西澤達治・藤井敏嗣・安田 敦
- P40 富士火山掘削井の物理検層による火山浅層部の構造 ※小村健太郎
- P41 山梨県による火山防災イノベーション事業 2025 年の取り組み  
※本多 亮・吉本充宏・藤井敏嗣

- P42 箱根火山の三次元比抵抗構造推定  
 ※◎重松弘道・相澤広記・井上智裕・田辺暖稔・松永佳大・河野太紀・中村謙佑・平田一聖・松原 鈴・勝山あすみ・室伏龍真・内田和也・上嶋 誠・小山崇夫・橋本 匡・西本太郎・秋山峻寛・渡邊篤志・村松 弾・松永康生・大石健登・吉村令慧・小松信太郎・米田 格・三浦 勉・達山康人・長岡愛理・名田彩乃・中川 潤・富阪和秀・吉川昌宏・市原 寛・小川康雄・増田章吾・北岡紀広・山下 風・櫻井未久・大中 心・吉澤史尚・千馬竜太郎・佐々木康氣・萬年一剛
- P43 箱根山、富士山および霧島山での深部低周波地震のモニタリング ※栗原 亮
- P44 住民説明会での箱根山プロジェクトマップの活用 ※江川 香・佐々木寿・杉下七海
- P45 箱根火山大涌谷の植生踏査の報告 ※山川隆良
- P46 伊豆大島 N1/N2 間ロームにおける新島久田巻・阿土山テフラの検出  
 ※◎川畑美桜子・鈴木毅彦
- P47 伊豆大島 1999 年と 2009 年地震波速度構造探査データの統合解析  
 ※田中 聡・及川 純・渡辺秀文・熊谷博之・松島 健・藤原建治
- P48 神津島、天上山火山の形成史  
 ※古川邦之・金丸龍夫・宇野康司・壺井基裕
- P49 三宅島火山、水溜りマール内の火砕丘の年代および岩石学的特徴 ※渡部将太・長谷川健
- P50 GNSS 観測データと水準測量データを用いた三宅島の地殻変動およびその圧力源の推定  
 ※◎松原 鈴・松島 健・山口雅弘・土土井歩佳・青木陽介・渡邊篤志・及川 純・太田雄策・大園真子
- P51 ヘリウム同位体から探る小笠原硫黄島の最新マグマ噴火活動  
 ※◎山本蒼邦・角野浩史・長井雅史
- P52 小笠原硫黄島における長期的な地震波速度変化と地殻変動 ※高野智也・西田 究
- P53 小笠原諸島硫黄島で観測される単色微動の発生プロセスの考察  
 ※及川元己・小園誠史・高野智也・廣瀬 郁
- P54 地形・地質・岩石磁気学的手法による神鍋火山の形成過程の検討  
 ※松村虹希・中岡礼奈・黒木貴一・奥野 充
- P55 福江単成火山群の嵯峨島火山の構造と発達過程  
 ※新山碩人・外戸口晴香・下司信夫・川澄隆明
- P56 五島列島福江島、鬼岳火山の形成過程に関する地形・地質学的考察  
 ※黒木 瞭・Kang Minjae・柵山徹也・黒木貴一・奥野 充
- P57 阿蘇中岳中央火口丘・中岳火山および高岳火山の構造と発達過程 ※◎外戸口晴香・下司信夫
- P58 Aso-4X 噴出物の岩石学的特徴と噴火前マグマ蓄積条件  
 ※潮田雅司・矢野弘道・大西耕造・石川慶彦
- P59 阿蘇カルデラ西外輪山コアに記録された先阿蘇火山活動史とその岩石学的特徴  
 ※三好雅也・佐野貴司・角野浩史・仙田量子・梅崎基考・長谷中利昭
- P60 玉来川溶岩の古地磁気強度絶対値測定の予察～Aso-2 噴火年代の再検討に向けて  
 ※◎内山賢太・武富真由・辻 智大・山本裕二
- P61 VUI (火山活発化指数) による阿蘇中岳の活動評価 ※大倉敬宏・宇津木充・森 俊哉
- P62 九重火山起源, Aso-4/3 間の下坂田火砕流堆積物の層序と特徴  
 ※岡田将英・辻 智大・潮田雅司
- P63 北部九州姫島火山群の貫入岩および溶岩の K-Ar 年代 ※◎宮崎亜依・三好雅也・角野浩史・佐野貴司・堀内 悠
- P64 霧島火山の新期活動ユニットの  $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$  および K-Ar 年代測定  
 ※山崎誠子・及川輝樹・石塚 治・Daniel P. Miggins・Anthony A. P. Koppers
- P65 霧島山周辺における空間的に均質なひずみ場の推定 ※安藤 忍・内田 東・小澤大輝
- P66 霧島硫黄山直下の岩相の解釈と比抵抗構造との比較  
 ※草野有紀・山元孝広・古川竜太・松島喜雄・朝比奈大輔・石塚吉浩・井村 匠
- P67 霧島硫黄山噴火後の熱水化学組成の経時変動 (VI) ※石橋純一郎・宮本知治・松島 健・山中寿朗・田島靖久
- P68 GSJ24-KI-1 の鉱物学的特徴 霧島火山硫黄山直下の変質帯の実態  
 ※井村 匠・草野有紀・古川竜太・石塚吉浩
- P69 ALOS-2/4 による霧島山新燃岳の火山活動監視  
 ※市村美沙・室山伶太郎・中島正寛・上芝晴香・雨貝知美・若杉貴浩・石本正芳・宗伯浩志
- P70 2025 年新燃岳噴火過程に関連した火山性地震活動の推移 ※行竹洋平・大湊隆雄
- P71 Normalized Inner Product を用いた地震波動場モニタリング—2025 年霧島山新燃岳噴火データへの適用— ※廣瀬 郁
- P72 Ellipse-approximated isopach map (EAI) method を用いた火山灰噴出量解析システムの開発について 新燃岳噴火の事例 ※田島靖久・池上郁彦

- P73 霧島山新燃岳 2025 年噴火の自動降灰観測  
※瀧下恒星・森田裕一・小澤 拓・棚田俊收・  
長井雅史・吉澤史尚・中道治久・  
味喜大介・竹中悠亮・嶋野岳人
- P74 霧島火山新燃岳 2025 年噴火に伴う火山灰の水溶性成分  
※◎熊本圭純・谷口無我・宮縁育夫
- P75 新燃岳 2025 年 7 月 2～4 日噴火の火山灰構成粒子の鉱物・ガラス化学組成  
※宮城磯治・木尾竜也・松本恵子・池永有弥・  
及川輝樹・古川竜太・岩橋くるみ・新谷直己・  
宝田晋治・草野有紀・東宮昭彦・斉藤元治
- P76 霧島火山群、新燃岳における 2025 年 7 月 6 日の噴火イベント  
※筒井正明
- P77 霧島火山、御池噴火堆積物の分布と噴出量  
※木尾竜也・春田悠祐・成尾英仁・  
下司信夫・西原 歩・宮縁育夫
- P78 2019 年 2 月 -2025 年 1 月までの始良カルデラにおける水平地盤変動とその特徴  
※筒井智樹・味喜大介・山田大志・園田忠臣・  
竹中悠亮・為栗 健・井口正人・中道治久
- P79 桜島・始良カルデラにおける統合先端地震観測  
※高木涼太・廣瀬 郁・西村太志・高野智也・  
福島 駿・為栗 健・山田大志・  
中道治久・八木原寛
- P80 始良カルデラ噴出物の化学組成データベース：概要と予察的解析  
※西原 歩・上木賢太・原口 悟・  
浜田盛久・羽生 毅
- P81 The Two-dimensional Resistivity Structure beneath the Sakurajima Volcano Inferred from a Magnetotelluric Survey  
※◎Cinantlya Nirmala Dewi・吉村令慧・  
畑 真紀・宮町凜太郎・小松信太郎・  
山崎健一・園田忠臣・竹中悠亮
- P82 火山灰粒子からみた桜島火山近年の噴火と有史の大規模噴火間の活動  
※◎高橋宏長・安田真也
- P83 コア試料からみた桜島火山の南岳火山砂をもたらした活動  
※◎渡邊友章・安井真也
- P84 桜島山頂火口地形の経年変化と土石流の発生  
※梅谷涼太・清水武志
- P85 桜島火山噴火時に記録された地磁気地電流データのパルス状変動に関する考察  
※畑 真紀・吉村令慧・Cinantlya Nirmala Dewi・  
宮町凜太郎・山田大志
- P86 桜島における光ファイバーケーブルを用いた DAS 観測による爆発地震の検出  
※江本賢太郎・米盛航平・  
Syed Idros Bin Abdul Rahman・  
西村太志・中原 恒・廣瀬 郁・  
田口貴美子・中道治久
- P87 桜島 DAS により観測された 2 回の土石流に伴う地盤振動波形データの比較  
※田口貴美子・西村太志・中原 恒・廣瀬 郁・  
中道治久・江本賢太郎・濱中 悟
- P88 鬼界カルデラ DAS で観測された火山性地震の特徴  
※中野 優・中島倫也・荒木英一郎・杉岡裕子・  
伊藤亜妃・松本浩幸・横引貴史・  
利根川貴志・小野重明
- P89 InSAR 解析による口永良部島での地殻変動検出と圧力源推定  
※◎淵野葵生・中尾 茂
- P90 2025 年トカラ列島近海の群発地震活動の震源分布と海底地形等との対比  
※八木原寛・平野舟一郎・仲谷幸浩・  
中尾 茂・嶋野岳人・下司信夫
- P91 トンガ王国トンガタブ島における巨大津波を引き起こした火山イベントの検討  
※◎中田光紀・池永有弥・後藤和久・前野 深・  
Folauhola Latu'ila・Savelinga Fa'olui・  
Rennie Vaiomounga・Taaniela Kula・市原美恵
- P92 2025 年 7 月 30 日カムチャッカ半島地震 (Mw8.8) による火山噴火の誘発について  
※西村太志
- P93 キラウェア火山の溶岩チューブ洞窟形状による溶岩流の温度、粘性係数の推定  
※本多 力
- P94 東太平洋海膨 Hess Deep 海盆 (IODP Exp. 345, U1415P) の下部海洋地殻かんらん石斑れい岩のクロムスピネル中に産する多様な鉄チタン酸化物  
※◎千葉 明・星出隆志・近藤恵太
- P95 単斜輝石の高温高压実験データの多変量解析による平衡メルトの物理化学情報推定法の評価  
※◎川合陵介・岡田郁生・宗近俊祐・柴田知之
- P96 全岩化学組成の多様性からみる大規模珪長質噴火の可能性評価に関する予察  
※金田泰明・佐藤勇輝・広井良美・西来邦章
- P97 粒子入り液体を用いた気泡液膜破裂のアナログ実験  
※◎豊福康太・大橋正俊
- P98 気泡と結晶を含む低粘度マグマのアナログ引張実験 放射光 X 線 CT を用いた内部構造変化の可視化に向けて  
※◎小田沙也加・並木敦子
- P99 安山岩質火砕岩中の液相不混和による火道浅部プロセスの制約  
※◎村木琢磨・中村美千彦・無盡真弓・安井真也
- P100 苦鉄質・珪長質マグマの岩脈厚さと応力の変化について  
※◎松原巧樹・三浦大助・徳田一真・中右昇一
- P101 火道及びマグマだまりの増圧過程が噴火前の地殻変動に与える影響  
※小園誠史・西村太志・松本亜希子・  
中川光弘・井口正人・三輪学央

- P102 大規模マグマ水蒸気噴火におけるマグマの破碎過程  
※柴田翔平・長谷川健・吉村俊平
- P103 高温熱水系における石英の不均質析出を考慮したシリカシール層形成の数値シミュレーション  
※松永康生・渡邊教弘・岡本 敦・土屋範芳・赤塚貴史
- P104 火山における熱活動の多様性を支配する要因：熱水流動シミュレーションからの制約  
※梨元 昂・寺田暁彦
- P105 クリギング法を用いた火山性地殻変動検出の試行  
※影山勇雄・西村太志
- P106 クラック共鳴振動による地震動計算手法の開発  
※◎中野誠之・熊谷博之
- P107 流体流動による調和振動型微動の周期倍分岐の検討  
※◎平山裕登・山本 希
- P108 間欠泉アナログ実験における時間予測性の破れ  
※◎稲盛悠佑・大橋正俊
- P109 火山性微動増幅をとまなう火口湖での噴湯現象の検出  
※石井杏佳・横尾亮彦・大倉敬宏・吉川 慎・井上寛之
- P110 土壌水銀観測による隠れた火山ガス放出活動の量的評価  
※◎笹 和樹・寺田暁彦
- P111 二酸化硫黄放出率観測に用いる標準濃度ガスセルの検定  
※森 健彦・関 香織・谷口無我・森 俊哉・手操佳子・栗原佑典
- P112 降灰シミュレーションコード (TWiCE) と Walker ダイアグラムを用いたテフラ分散パラメータの定量的評価  
※◎酒井俊隆・三井雄太・萬年一剛
- P113 メソアンサンプル予報値を入力した移流拡散モデルによる降灰の確率予測  
※新堀敏基・石井憲介・石元裕史・関 香織・橋本明弘
- P114 確率論的降灰ハザード評価のための降灰量の偶然的ばらつきに関する検討  
※時実良典・藤田英輔・棚田俊收・前田宜浩・藤原広行
- P115 機械学習による火山灰構成粒子自動識別機能の応用  
※下司信夫・宮川歩夢
- P116 ひまわり・GCOM-C と高分解能衛星赤外画像による火山観測  
※金子隆之・安田 敦
- P117 Home Reef 火山の衛星観測システムの構築とその応用  
※◎堀内拓朗・市原美恵・金子隆之・Taaniela Kula・Rennie Vaiomounga・Tonga Geological Services Staffs
- P118 周波数領域ドローン電磁探査システムの開発  
※石須慶一・北岡紀広・小川康雄・寺田暁彦
- P119 火山噴火時を想定した高高度航空レーザ計測の検討  
※佐々木寿・杉下七海・江川 香・栗本享有・御園 隆・新井龍之介
- P120 近年の欧州で発生した火山噴火における住民等の避難タイミングの比較  
※佐藤明夫
- P121 市町村を対象とした図上訓練の実施方法に関する研究  
※久保智弘
- P122 二次泥流発生に影響する火山灰物性の調査  
※清水武志